

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100332		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 常葉の家(1号館 2号館 3号館 合同)		
所在地	静岡県掛川市大坂398-1		
自己評価作成日	平成26年 7月22日	評価結果市町村受理日	平成26年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JizyosyoCd=2276100332-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○利用者の状況、要望に個別に応じられるよう、心掛けています。 ○目の前に公園があり、恵まれた自然環境にある。また、買い物も歩いて行ける近さなので、生活環境として快適です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>スーパーやホームセンターに囲まれた賑やかな中心地に事業所は位置しています。「気づいた汚染に即行動する」との言葉通り、隅々まで手入れの行き届いた環境は衛生観念の高さが見て取れます。10周年記念行事には利用者も出演する花さか爺の寸劇に盛り上がる非日常の楽しさの演出がある一方で、運営推進会議には職員も出席しており、課題への丁寧な取り組みは詳細な会議録からも確認されました。向上心あるベテラン職員を中心として、今後を担う若い世代の得意分野に着目して成長を促していることが見え、任されることで生まれた自主性は「目の前の利用者の笑顔や変化が嬉しい」という喜びとなって実を結んでいます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、その人らしく生活でき、何らかの役割を持ちながら、楽しく暮らせるよう、理念にもとづいた支援を心掛けています。	理念は朝礼やユニット会議で話材とし、立ち返る原点となっています。畑や台所仕事といった役割によって暮らしが活性化することを体得しており、そのためのアプローチに惜しみない時間を割いています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	独自で地域の草刈りも参加し、祭りの屋台は、施設の中に入ってもらったり、地域の婦人部の方の唄や踊りを定期的に来て披露して頂いています。大坂幼稚園の園児も来て唄や踊りをして頂きます。	園児訪問や地域のフラダンス愛好会の披露は恒例となっていて、中高生の福祉体験も受け入れています。公園に来た親子が怪我の応急処置に駆け込めるほど地域に溶け込んだ場所となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学校で福祉体験があり、生徒に、順番に2日間体験して頂いています。今年は勉強会にも参加して頂きました。また、掛川市の民生員の方10名の見学等いつもオープンにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っています。また、講師の方に来て頂いたりして、サービス向上に役立っています。	定期開催し毎回市担当者の出席を得ています。職員も複数同席するなかで看護師や薬剤師による勉強会を開いたり、他地区で開催される同一法人事業所の運営推進会議へも参加し、充実した内容を追及しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議でケアサービスの取り組みを伝えたり、また、日頃から連絡をし協力関係を築いています。	年3回のサービス連絡会議や、地域の事業所が集まる“つなぐ会”では関連施設や福祉用具、防災訓練の情報交換に役立っています。地震が起こった時にはすぐに安否確認の電話がもらえ、良好な関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が理解しています。身体拘束をしない、その人らしいゆとりのあるケアを心掛け、コミュニケーションをとっています。	車道に面しているため安全面から玄関のみ施錠しています。外出の意思に気づいた時はさりげなく付き添い、開放時に声をかけ合う職員の連携を視認しました。スピーチロックについては何故そのような行動をとるのか、本人の気持ちを汲むことで言葉かけも変わると指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講演に行ったり、その資料をもとに職員同士で学ぶ機会を持ち、また法人の研修や朝礼の内容にも取り上げられており、職員は意識を高く持ち、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人的に講習に参加し、他職員も学ぶ機会を持ちそれらを活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階で、十分な説明を行い、家族の疑問点に回答できるようにし、理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には希望、要望を伺っており、伝えにくいことは、意見箱で受け付けています。	運営推進会議への出席は少ないのが現状ですが議事録は手渡しています。面会時は近況報告から要望を聴き出し、昨年は昼食会として参加を呼びかけたところ十数名の来所があり事業所理解が深まっています。	昼食会の開催継続を通じて家族がさらに事業所へ足を運ぶ機会が増えることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議には、管理者や地域責任者が必ず出席し、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	小さなアイデアでも採用されて利用者の喜びに繋がることから企画書の発案が増えていきます。管理者は得意分野を活かす姿勢を貫いており職場を離れての親睦会も盛んで風通しの良さや安定感を醸成しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人評価、資格手当を与えるなど、向上心を持って働けるよう図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修があります。法人外でも、研修を受ける機会があり、向上できるように進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、地域のつなぐ会や、連絡会に出席し、交流する機会を作り、勉強会や意見交換等サービスの質の向上させていく取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人に会い、思いや不安等を把握することに努め、常に耳を傾けながら、安心して過ごせるように、信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で、不安なこと、要望等傾聴し、面会に来られた時に、電話での報告、手紙などで関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い、その人らしい生活の継続が図れるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのペースを大切にし、家族のように共存し庭には畑があり、野菜の育て方など、利用者から学び、お互い支え合う雰囲気大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1度、写真付きの手紙を出し、本人と家族の絆の大切にしながら、築いていけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのスーパーに買い物に出掛けたり、友人に便りを出せるように支援しています。	日舞の恩師に会いに行ったり、ドライブがてら自宅の畑を見に出かける人もいます。友人の訪問も多く、なかでも顔なじみによる『よさこい』やフラダンス、祭り太鼓とお囃子の演奏にはいっそう表情が和みます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、お誕生日会、行事等一緒にあって孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が、他施設に転居しても、面会に伺ったり、その方のご家族がホームに来られ、お話しして帰られたり、そのご家族の紹介で地域の方が相談に来られたりします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、何気ない言葉を大切にし、思いや意向を察し、自己決定できるよう心掛けています。	日常の会話やしぐさから把握したり、また入居前のアセスメントから言葉にできない思いを汲むことに努力しています。食後も席を立たずにじっくりと話を聞く職員の姿に、日頃の実践を垣間見ることができました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に居宅ケアマネ等より情報を聞き、家族、本人から話を聞き、把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ゆったりした雰囲気、出来る事やしたい事を尊重し、無理なくその人らしく過ごせるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、現状の把握やニーズを検討し、介護計画を作成しています。	3ヶ月ごとに見直しサービス担当者会議には家族も同席をお願いしています。プランは毎日の介護記録チェック表で長期・短期目標の項目ごとに確認し、達成できた喜びを本人、家族と共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づきや工夫を個別記録に記入し、サービス担当者会議で活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と話し合い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園で地域の方と触れ合ったり、近隣の会館で季節によってお花畑ができ、お花を摘んだりして外出しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と協力体制を築き、また、訪問歯科にも適切なケアを受けられるように支援しています。	かかりつけ医を継続する人もいます。受診には、正確な診断のために日頃の様子をよく知る職員が付き添い、家族にも都度報告しています。家族受診の場合は状態変化が伝わりやすいよう書面で情報提供しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は看護師の出勤の際には、報告及び指示を得、適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院や安心して治療できるようにご家族とも相談し、総合病院の連携室との情報交換や相談等関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の状態を把握し、家族、医師と十分な話し合いを行い、取り組んでいます。	この2年実績はありません。入居時に「食事が摂れなくなった段階で相談したい」と家族には説明し、家族だけでなく医師や訪問看護の協力なくしては取り組めないとの理解を得て、対話に力を注いでいます。法人主催の定例研修にてターミナルケアを学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を職員全員で受けており、定期的に講習に行き、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、総合訓練を昼間、夜間と想定して行って、地域の方と津波訓練をし、協力体制を築くよう努めています。	年2回実施し、毎回想定を変えることで危機感をもち、また平準化できるよう工夫しています。訓練への参加はありませんが、津波避難場所として屋上の利用を近隣住民に発信し、口頭での協力関係を形成しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し、思いやりを持った声掛けを心掛けています。	利用者の目の前では申し送りにしないことを徹底し、ゆっくり食べたい人のペースに合わせて席を立つ職員の姿には業務優先でない様子が視えます。入浴では羞恥心への配慮から、同性介助として支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位で言葉に気を付けて、働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、今やりたいことや、思いを尊重し、希望に添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服をクローゼットから、いろいろ出して、洋服選びをしています。洋服選びや、おしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を取り入れ、食事メニューを好みを聞きながら献立に反映させている。利用者と職員と一緒に会話を楽しみながら片付けをしています。	皮むき、下ごしらえを役割分担し週に4日の手作り料理では「お刺身が食べたい」という声にも即時対応できる利便性と職員の度量があります。畑で収穫した作物はスイカ割り、焼き芋パーティーにと活躍しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が確保できる様努めています。メニューを決める時もバランスを考えて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内のケアを徹底しています。又、訪問歯科により、歯科衛生士の指導を行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は綿パンツ、夜間は紙パンツ、習慣を活かして、自立に向けた支援を行っています。	入居時や退院後にはオムツであっても、排泄間隔や習慣を観察して綿パンツに移行できるよう努めています。成果としてかぶれが軽減したり、本人も自信をとり戻すことによりスムーズな自立に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談したり、個々に応じた散歩や体操、便秘予防の飲み物等、考えて取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月水金、と入浴を行い、湯船につかって、のんびりお話しをしたり、歌を唄ったり、個々にそった支援をしています。	タイル清掃の行き届いた浴槽は仲の良い利用者が誘い合って入れる広さがあります。温泉気分で歌も飛び出しますが、長湯にならないよう留意しています。家族や職員が持ち寄ったゆずで変わり湯も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットを使用する方、布団を使用する方等、自由にさせていただきます。本人の就寝時間の習慣を聞いて、リズムを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を常に出して、理解し症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、洗濯干し、取り込み、たたみ、買い物、菜園作り、水やり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園や、買い物に出掛けたり、季節によっては、花見におやつを持って出掛けたり、希望に添うよう支援しています。	夜間の安眠は日中の充実した活動との関わりが深いことを実感し、玄関は一日を通して屋外へ出かける人で賑わっています。100円ショップや地元の桜の名所、コスモス畑にも出掛け、受診の際には懐かしい風景のドライブを楽しむ人もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の買い物で、所持し使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の承諾を得、電話をしたり、年賀状のやりとりができる様、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を飾ったり、掲示板で四季折々の工夫をしています。	築10年でありながら隅々まで磨かれた床や浴室は「汚れたらすぐに」の習慣と衛生観念の高さの賜物です。豊かに差し込む光も西日が強い時にはカーテンで温度調整し、食事中はテレビを消して利用者と同じ向き合う時間を大切にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方達で、ホールのソファで過ごされたり、新聞に目を通す方がいたり、テレビを観たり思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に朝日が入り、気持ちが良いです。使い慣れた物や、好みの物が置かれ、居心地よく過ごされています。	ベッド、クローゼット、エアコンが備え付けられ馴染みのぬいぐるみや観葉植物と思いおもいの持ち込みがあります。リネン類はチェック表に頼らず汚染時はすぐに交換し、清潔な環境が保持されていることを確認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室、廊下、トイレ等に手すりを設置し、自立した生活を送れるよう支援しています。		